

32. 65歳以上の患者に摘出を行った歯牙腫の3例

中村 恵, 栗林良英, 花澤康雄
(川鉄千葉)

【症例1】65歳女性。上顎智歯部の歯牙様硬組織萌出のため受診し局麻下にて摘出。

【病理診断】集合性歯牙腫。

【症例2】84歳女性。上顎智歯部の腫脹と排膿にて受診し不整形な歯牙様不透過像を認めたので全麻下にて摘出。

【病理診断】複雑性歯牙腫。

【症例3】65歳男性。左上小臼歯歯槽部に類円形の透・不透過混合像と埋伏歯を認めたため全麻下にて摘出。

【病理診断】複雑性歯牙腫。文献的検索を行うと60歳以上の歯牙腫の発生頻度は、12/870人(1.37%)であった。

33. 上顎骨に生じたセメント質骨形成線維腫の1例

東壽一郎, 宮 恒男(成田赤十字)

上顎に生じたセメント質骨形成線維腫の1例を報告した。

【患者】14歳女性。

【主訴】左上顎犬歯根尖部付近の腫瘤。

【既往歴】肝芽腫(1歳)。

【現病歴】平成13年11月、左上顎犬歯根尖部付近の腫瘤を自覚し、近歯科受診。精査加療目的に12月27日当科紹介来院。同部に非可動性、骨様硬の腫瘤触知。生検の結果、化骨性線維腫。平成16年3月25日、全麻下に摘出術施行。術後8か月経過した現在、再発は認めない。

34. 上顎洞内に認められた骨壁で覆われた歯根嚢胞の1例

中津留誠(千葉医療センター)
中嶋 大, 加藤義国(千大)

今回われわれは、上顎洞内に認められた骨壁で覆われた歯根嚢胞の1例を経験したが、本邦での報告は本例を入れて11例だけであった。症例は33歳男性で、主訴は右頬部の違和感。CT像では、右上顎洞内に類円形の骨様不透過像と内側に嚢胞様陰影像を認めた。全身麻酔下で嚢胞と周囲骨壁を一塊として摘出した。病理組織では歯根嚢胞とその周囲を覆う多列線毛円柱上皮と骨を認めた。その骨形成の成因については未だ解明されていない。

35. 耳下腺嚢胞の1例

浅海詩子, 山浦永美子, 齊藤康行
鶴田 正, 秀 真理子, 大木秀郎
松本光彦(日大・歯口外2)
大野敦香, 三木裕香子, 長谷川光晴
田中 博(日大・歯口外1)

患者は69歳女性。右耳下腺部の無痛性腫脹を主訴として来院。右耳下腺部に23×20mm大の境界明瞭で、弾性硬の腫瘤を認めた。超音波およびMRI所見では嚢胞様病変を認めた。耳下腺腫瘍または嚢胞の臨床診断の下、耳下腺浅葉切除による腫瘤摘出術を施行。摘出物は繊維性被膜に被われた単房性の嚢胞で淡黄色の内容液が見られた。

【病理組織診断】Branchial cyst。術後再発の傾向は認められない。

36. 眼症状を呈した術後性上顎嚢胞の1例

金澤優美, 成川公貴, 上原 渉
品川康弘, 麻野和宏, 佐々木忠昭
今井 裕(獨協医大)

術後性上顎嚢胞の症状は多彩な臨床症状を呈し、患者はその症状により耳鼻科・眼科・歯科口腔外科の三科の領域にわたって来院することがある。今回われわれは、術後性上顎嚢胞で眼窩底骨吸収が著しく、高眼圧症、眼球の上方偏位および複視などの眼症状伴った症例に対し、Caldwell-Luc法に準じた嚢胞摘出術、および眼下底再建術を施行し良好な結果が得られたので報告する。

37. 両側性に生じた含歯性嚢胞の1例

原龍太郎, 宇那木利英子, 廣島直彦
奥田八重子, 山本晃司, 瀧川富之
大木秀郎, 松本光彦(日大・歯口外2)
五十嵐裕二, 原田大輔, 田中 博(日大・歯口外1)

今回われわれは、下顎智歯部に両側性に生じた含歯性嚢胞の1例を経験したので、文献的考察を加えて報告した。患者は51歳女性。某歯科にて両側智歯部の透過像を指摘され、精査加療目的で当科紹介来院。X線所見で両側下顎智歯歯冠を含む単房性、境界明瞭な嚢胞様透過像を認めた。平成16年5月19日、下顎両側智歯部含歯性嚢胞の臨床診断で嚢胞摘出術および下顎両側智歯抜歯術を施行、現在術後4か月で経過良好である。